

日時	プログラム	場所
9月27日 (火)		
10:45-11:45	国際青年交流会議オリエンテーション	成田エクセルホテル東急
12:30-13:45	昼食交流会	
14:00-15:40	[課題別ディスカッション1] ・事前課題にもとづき自国の伝統文化について発表	
15:40-16:20	[課題別ディスカッション2] ・事前課題と各国の発表を基に、継承されている伝統文化、失われつつある文化の相違点を見つける	
16:30-17:20	阿部一穂アドバイザーによる講義 「なぜ茶道は500年近くも継承されてきたのか」	
17:20-18:00	[課題別ディスカッション3] ・伝統文化はなぜ継承されてきたのか	
19:00-20:30	夕食交流会	
9月28日 (水)		
8:15	課題別視察先へ向けて集合・出発	裏千家東京道場
10:00-11:30	課題別視察：裏千家	
12:30-13:30	昼食	
15:00-15:40	[課題別ディスカッション4] ・伝統文化の果たす役割とは何か	成田エクセルホテル東急
15:40-16:15	[課題別ディスカッション5] ・伝統文化をその伝統文化たらしめる要素とは	
16:25-17:00	[課題別ディスカッション6] ・所属先別（政府、企業、NPO/NGO、地域社会、学校）による伝統文化の取組を考える	
17:00-17:30	まとめ	
19:00-21:00	文化交流夕食会	
9月29日 (木)		
9:00-10:15	[課題別ディスカッション7] ・個人のアクションプラン発表	成田エクセルホテル東急
10:30-12:00	ホテルニューオータニへバス移動	ホテルニューオータニ
12:00-13:00	昼食	
13:00-15:00	課題別ディスカッションまとめ	
15:30-16:30	成果発表会	
17:00-18:00	評価会	
18:30-20:00	レセプション	
20:15	日本参加青年出発、国立オリンピック記念青少年総合センターへバス移動	



今年の文化コースでは、「伝統文化が継承されていくために必要な要素」に焦点を当てました。なぜなら、グローバル化の波は文化にも押し寄せており、一つの伝統文化が従来と全く変わらない形で生き残っていくのは難しい状況にあるからです。ディスカッションを通じて参加青年たちが出した結論は、「順応性・柔軟性」でした。伝統文化の面白みは多様性にあります。そのような伝統文化において、順応性・柔軟性は画一化を招きかねない危険な要素でもあります。しかし、誇りやアイデンティティを忘れない限り、どのように柔軟に対応、順応しても、その伝統文化の本質は変わることなく受け継がれていくのです。事前課題で取り上げた「失われつつある伝統文化」が失われつつある

のは、順応性・柔軟性の欠如が大きな理由として挙げられるでしょう。

順応性・柔軟性は私が紹介した茶道にも当てはまります。「静」の文化ともいえる茶道において、歌やダンスを取り入れることはありません。しかし、どのような場所でどのような道具を使っても、和敬清寂や一期一会の精神が失われない限り、茶道は日本の伝統文化として継承されていくことでしょう。

参加青年の皆さん、この報告書が届くとき、皆さんのアクションプランを書いた紙のお人形はまだ手元にありますか。宣言を忘れず実践していらっしゃいますか。次世代に向けてだけではなく、世界中に皆さんの取組を広げてくださることを心から願っております。

7か国、30名以上の青年が「文化」とりわけ「伝統文化」について三日間にわたり議論する場で、どのような意見が生まれ、どのような着地となるのか、期待と少々不安を以てプログラムは始まりました。

はじめに各国の伝統文化についてのプレゼンテーションが行われました。単なる文化紹介に終始することなく、その伝統文化が、どのように・何故継承されてきたのかについてのプレゼンテーション及びそれに対する質問が続きました。他国の伝統文化について知り、自国のそれとの比較検討につなげ、継承されてきた伝統文化の特徴として、人間関係の構築・維持機能が、失われつつある伝統文化について、男女平等など社会構成・社会通念の変化等が示されました。続く阿部アドバイザーからの講義で、伝統文化に内在する精神性というヒントを得た青年たちは、伝統文化が継承されてきた理由について考え、「アイデンティティ」等幾つかのキーワードを導き出しました。翌日の裏千家への課題別視察では、露地の散策、茶道のデモンストレーションを通じ、青年たちは前日の講義内容を存

分に体感したことでしょう。

ディスカッションは現代の伝統文化が果たす役割に移ります。ここまでのディスカッションの結果に加え、青年たちは自分たちが現在認識する伝統文化について考えを深め、ある国の青年は宗教との関係性を、またある国の青年は政府機関との関係性を指摘しました。様々な意見を交わした青年たちは次に伝統文化がその伝統文化であるためには何が必要か、という議題に話を移し、一体感や精神的な平穏等をその答えとして挙げました。

更に、現代社会において、伝統文化の継承がどのように扱われているかを手がかりとし、各団体の特徴・強みをいかした取組を考え、ディスカッションの結びとして参加青年個人が始められるアクションプランが発表されました。

様々な背景を持つ青年が一堂に会し、ディスカッションを重ねた本プログラムが、参加青年が伝統文化継承を考える礎になることを願っています。

日本参加青年 ドミニカ共和国派遣団 煙草 将央

国際青年交流会議に参加して、私は「伝統文化の重要性」と「国際社会におけるリーダーシップの必要性」を学びました。

私は、文化コースで、外国青年たちと現代における伝統文化の役割と価値、そしてそれをいかにして継承するかについて話し合いをしました。ディスカッションを通して、伝統文化は私たちのアイデンティティに深く結びつく重要なものだということが分かりました。また、課題視察で訪れた裏千家東京道場では、私にとっても初めてであった茶道を外国青年たちと学び、日本の伝統文化を見直し、日本の伝統文化を外国青年に伝

えるきっかけとなりました。昨今、異文化理解が唱えられていますが、まず自文化の尊重なしに文化の相互理解はできないということを学ぶことができました。

また、失敗から学ぶこともありました。ディスカッションやプレゼンテーションの準備など、意見交換をする場面が会議期間中何度もありましたが、いつも話し合いを進めてくれていたのは外国青年でした。日本青年の代表として思うようにできず苦い経験をしました。しかし、この経験を糧に、日本人として国際社会でも指導性を発揮できるようこれから努力していこうと思いました。

日本参加青年 ラオス派遣団 鮎子田 真梨子

国際青年交流会議に参加し、学んだことは「理解しようとする事、積極的になることの大切さ」です。私は今回初めて外国青年とのディスカッションを経験しました。宗教も文化も政治体系も異なる国々から集まった青年はバックグラウンドが大きく異なりました。そのため、ディスカッションでは各国に対する好奇心と、誤解を防ぐためにその国の現状を詳細に話すことが重要だと感じました。それと同時に、裏千家東京道場への訪問及びディスカッションを通して、自国の文化に対する知識の乏しさを痛感しました。また、内向的で人見知りであった自分が、時間のなかで率

先して発表準備を行ったり、成果発表会でプレゼンをする機会を頂いたりしたことで、度胸がつけました。そして積極的に参加することで貴重な機会を頂けることに気がきました。

今後は学んだことをいかし、自国の文化に対しても好奇心を持ち、地元のコミュニティで日本の伝統文化について学びたいと思います。また自信のないことに対しても挑戦し、様々な機会に積極的に取り組みたいと思います。このような機会を作ってくくださった、関係者、参加者の皆様ありがとうございました。



ドミニカ共和国参加青年 エドワルド・アルセニオ・ミラバル・ド・ヘスス

文化コースに参加したことは、私の人生最高の経験の一つでした。私たちは日本、ドミニカ共和国、ラオス、リトアニア、オーストリア、バーレーン、パプアニューギニアの7か国のアイデンティティを知りました。

各国の伝統と意見、背後にある歴史に目を向け、その様々な文化的側面を知ることができました。参加者との交流を通じて、各国の文化を保存する手段を探り、文化の保存がいかに重要であるか、また、各国の類似点と同時に相違点がいかに多いかということを知りました。

類似点や相違点があるからこそ、文化コースは様々な感情面での難しさもあり、感動的でもありました。なぜならば、それによって参加者の交流が促され、それぞれの文化を表現することができたからです。

茶道は日本文化の美しさに対し私たちの心を開き、

自国の文化とアイデンティティの大切さに目を向けさせてくれる素晴らしい手段であったと認めなければなりません。この儀式には500年を超える歴史があることに驚かされましたが、実際に体験してその伝統の理由が分かりました。

文化コースは多くの学びがあると同時に楽しい経験でしたが、各国のメンバー一人一人が自国の伝統文化を伝え、同じ目的の下で一つのチームとなって献身し、すべてを総括したことで、このコースは最高の形で終了しました。このコースを通じて自国及び日本、ラオス、リトアニア、オーストリア、バーレーン、パプアニューギニアに対する見方が変わったという私の意見に全員が賛同してくれるでしょう。

このレポートを読んでいただき感謝いたします。文化コースにメンバーとして参加できたことを名誉に思います。

パプアニューギニア参加青年 ジェローム・セセガ

成田空港へのフライトそのものが、ある種の文化的な旅でした。それは800の言語と1,000の種族が共存する急成長中の都市ポートモレスビーから、発展と現代的テクノロジーが伝統文化の慣習と精神と完璧に同調する、喧騒に包まれた首都東京への旅でした。成田エクセルホテル東急に到着したパプアニューギニア団は、初めての和食ディナーによる歓迎を受け、お箸を使う技術を試されましたが、これは日本での経験をスタートするのに最高のきっかけになりました。

翌9月27日木曜日、国際青年交流会議の公式プログラム初日は、午前中の全体オリエンテーションから始まり、全参加国団は三つの主要コースに分けられました：1.文化、2.教育、3.環境

この短いレポートでは、文化コースのパプアニューギニア団から見た活動、フィードバック、学びについて説明します。文化コースはビッグバンで始まりました。私たちが最初に取り組んだのは、文化コースの参加青年が事前課題として調べてきた自国固有の習慣・文化についてでした。文化的慣習の持続可能な要素について、ディスカッションで取り上げ、なぜそれが継承されてきたか、あるいは継承されなかったのかに焦点を当てて話し合いを進めました。これは文化コースの

ディスカッションの取っ掛かりにふさわしい方向づけでした。なぜならば、これを通じて全参加国の多様性と様々な活動の特徴及び象徴、そしてこれらの活動が各国にとってどのような意味を持つかが浮き彫りになったからです。

オーストリア参加青年は自国のカフェ文化について説明し、ウィーン周辺の最新のカフェでコーヒーを飲むことを中心に生活が回っていることについて語りました。ラオス団のメンバーは結婚の文化について説明し、王族のような素晴らしい婚礼衣装の写真を見せてくれました。ドミニカ共和国の文化コースのメンバーは、メレンゲの踊りの文化と野球が全国民の生活に常に存在していると説明しました。リトアニアの友人たちは宗教が彼らの文化において非常に大きな役割を占め、クリスマスや祝祭シーズンの民間伝承が国民を一つにまとめていることなど情報を共有しました。主催国の日本は成人式の文化を取り上げ、成人式の概要と日本の若者がこの人生の節目をどのように祝うのかを説明しました。最後に私たちパプアニューギニア団は、国内のある地域に「タブ」またはシェルマネーとして知られている伝統的な貨幣制度が残っており、今でも商品や土地の取引に利用されているという事実を

取り上げ、他団のメンバーに知ってもらいました。私たちが行ったのは、まさにグローバル文化を推進するためのディスカッションでした。世界には宗教に根差したもから社会に根差したもまで無数の文化があり、多様性に富んでいますが、それらの文化には統一的要素があります。例えば文化的慣習の多くには、食と食事にまつわる楽しみや、物の取引・交換が含まれています。

国際青年交流会議二日目の木曜日は、文化コース参加者にとって忘れられない1日になりました。裏千家東京道場を訪問し、日本の茶の湯の儀式である茶道を体験したのです。それは私にとって映画の一コマのようでした。私たちは明るい花柄の着物姿の日本人女性たちに魔法の国のような庭へと導かれ、樹齢400年の盆栽の下で団長が浄化の儀式を体験しました。団長らは次々に、きれいな水から柄杓で水をすくって、まず左手、そして右手を洗い、口をすすぎました。この儀式は心と身体を清めることを意味します。私は日本人が自らの文化を非常に大切にしていることに感心しました。彼らは習慣的儀式の前に清めを行うことで、その文化に対する最高の敬意を表していました。庭を訪れた後、私たちは畳敷きの茶室に案内されました。床全体がテープのような黒い縁の四角い畳で区切られていました。女主人と二人のお弟子さんが複雑な作法で抹茶を点ててくださいましたが、その儀式の最中、彼らは一度もその黒い線を踏むことなく、畳の上を滑らかに移動していることに気がきました。お茶を点てて、振る舞う一連の行為には、数々の礼儀正しく美しい動作が含まれていました。女主人が竹の茶筥でお茶を点て、この儀式のためのものらしい呪文のような日本語を発し、お弟子さんが完璧な役割を果たしている様子に、私は恍惚となりました。抹茶は温かく、大変体に良さそうな味がしましたが、私は畳での日本式の座り方に苦勞しました。文化コースの背の高い男性メンバーたちも私と同じジレンマを感じていることに気がきました。

29日木曜日の午前中、私たちは文化コースの学びをアクションプランという形にまとめました。文化を推進し、守るために、日本と各国にとって必要なことは何か、また、この議題の推進にどのような団体や組織が関わっているかに焦点を当てました。これはとても重要なエクササイズでした。ファシリテーターが私たちの個人のアクションプランに特別な配慮を払い、私

たちは各自のアクションプランを書いて、大きな地球の絵に貼り付けました。それは私たち全員がグローバル市民であることをよく示すものであり、国、背景、民族にかかわらず、世界の全住人が自文化を保存し、世界と共有する責任を担っているのだと再認識させられました。

国際青年交流会議の公式プログラムは、ホテルニューオータニのフォーマルな晩餐会をもって終了しました。レセプションで参加各国団は、皇太子殿下の御臨席を賜るという栄誉を頂きました。私は光栄にも7か国から選ばれた代表として皇太子殿下からお言葉を頂戴しました。

国際青年交流会議の文化コースは、自らの文化を知ることの重要性、現在においてそれを鑑賞できることの大切さを強く思い出させてくれました。多くの文化が西洋化の影響によって消えつつあることは事実ですが、すべてが消えてしまったわけではないことを、文化コースを通じて私たちは発見しました。私たちの多様で美しい文化を推進し、保存するための責任を私たち全員が担わなければなりません。古い伝統と新しいものを融合するシステムを作り、バランスを取っていく必要があります。私たち青年は、もはや自らの文化を守り推進するための戦いに加わるかどうか迷っているわけではありません。実行に移すべき緊急の課題なのです。ありがとうございました。

